



樹人舎

【学校教育目標】背振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成
【小規模特認校】神埼市内のどこからでも通えます。
【コミュニティスクール】「地域とともにある学校」2年目（令和6年度～）

第19号

令和8年2月13日

神埼市立背振中学校

文責 校長 濵谷

＜学校HP＞



立志式が行われました



1月31日（土）、本校にて令和7年度立志式を行いました。2年生6名が現在の自分を見つめ直し、将来の夢や希望、なりたい自分について語り、決意を新たにしました。発表内容はもちろん、態度にも意志の強さが表れており、今後の成長がさらに期待されるものでした。当日は講師として生徒にとって、背振中の先輩にあたる、製薬会社にお勤めのM様に熊本市からお越しいただき、「みえないところから医療に貢献～



MRというお仕事～」という演題でお話をさせていただきました。いろいろなことに興味をもってほしい、自分を大事に、そして周囲の人に感謝を忘れないという熱いメッセージを贈りました。また「せふりの風」のH様、K様から、背振で収穫されたもち米をいただきました。ありがとうございました。また農地をお貸しくださっているI様にも心より感謝申し上げます。2年生は4月にはいよいよ最上級生となります。現在頑張っている生徒会活動や部活動はもちろん、学校の中心として行事や地域貢献に力を尽くしてほしいと思います。

期末テストが行われています。



10日（火）から1, 2年生は後期期末テストに臨んでいます。日々の授業内容から出題され、学習の定着度合いを知ることのできるテストです。生徒にテストの手ごたえを聞いてみましたが「難しかった」という声と「意外と簡単だった」という声が返ってきました。採点されて返却された答案の点数のみにとらわれず、どの教科のどの内容がよく理解できている、どの教科のどの内容の理解が進んでいないのか、必ず反省をして次の学習につなげてください。（写真は1, 2年のテスト前、テスト中のようす）

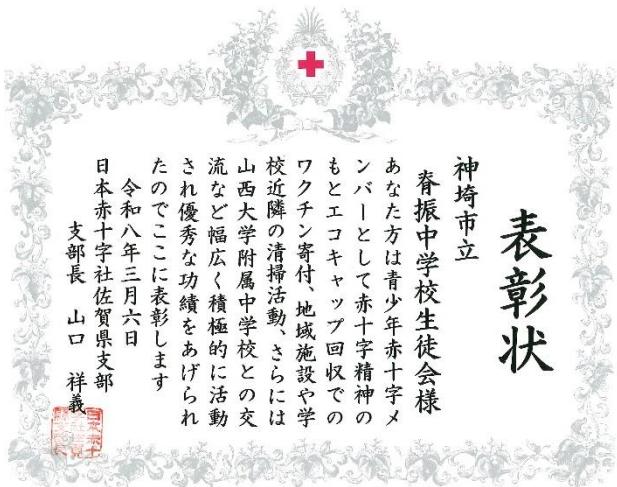
高校入試もいよいよ後半戦へ ガンバレ！3年生

年末から始まった高校入試も私立専修学校（通信制）から佐賀私立前期、後期入試、佐賀県立の特別選抜、福岡県の特色化選抜と進み、いよいよ後半戦へと入ってきました。ここ数日、いくつかの高校で合格発表があり、志望校に合格し、夢がかなった生徒もいれば、今後の県立高校合格に向け、さらに気合を入れ気持ちを高めている生徒もいます。今後の1か月が気持ちの面でも体力の面でも辛い時期になると思います。寝る間を惜しんで深夜まで学習を深めている生徒もいると聞いていますが、体調面には十分気を付けてほしいと思います。幸い脊振中では感染症は流行していませんが、県内の状況は流行期にあります。入試直前に発症すると、受験日には何とか治ったとしても、体には多少のダメージが残ります。体を冷やさぬように、食事もきちんととて後半戦に臨んでほしいと思います。ガンバレ、3年生！職員一同で応援しています。

天候に一喜一憂

先週の東日本は積雪が多かったようで、青森県の学校では体育館の屋根に積もった雪の重みに窓ガラスが耐え切れず、大量に割れたというニュースがありました。雪害で亡くなられた方もおられました。また東北地方の小中学校は数日間、雪による休校が続いたそうです。児童生徒はもちろん、地域住民の方々を思うと心が痛みます。かなり前ですが、研修で北海道に行ったことがあるのですが、現地の先生方に、「大雪の時は2階の窓が出口になる」「あつという間に1mくらい積雪するので、家がつぶれないように数時間おきに雪かきが必要」などと聞かされ、驚いたことがあります。一方、今週からは3月下旬並みの気温となり、春の訪れを感じさせる陽気になるという予報が出ています。花粉の飛散も始まるようです。私はひどい花粉症ですが、先週から少しアレルギー症状が出始めました。毎年困っています。この冬、本校の池の表面に氷が数回張りましたが、あと1回くらいは寒波が来るのではないかと思います。

青少年赤十字活動に対して表彰状をいただきました



今年度の本校の青少年赤十字活動に対して日本赤十字社佐賀県支部支部長様から表彰状をいただきました。併せてJRC委員長の3年生の〇〇さんも個人として表彰状をいただきました。人数は少ないながらも皆が協力して標記の活動を頑張った証だと思います。次年度もこれらの活動を通して地域に貢献をしていきたいものです。写真は平成24年に赤十字活動をおして佐賀県支部からいただいた、敷地内に植樹したイトスギです。14年ほどかけて苗木がこのように大きくなりました。イトスギは赤十字のシンボルツリーです。他にこの木をもらった他の学校では、近年の異常気象で枯れてしまったケースもあるそうですが、本校では写真のように立派に育っています。今後も赤十字活動を継続しつつ、この脊振中のイトスギも奉仕の心も枯らさずに大きく育てていきます。